

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6058251号
(P6058251)

(45) 発行日 平成29年1月11日 (2017. 1. 11)

(24) 登録日 平成28年12月16日 (2016. 12. 16)

(51) Int. Cl. F 1
F 2 1 S 8/10 (2006.01) F 2 1 S 8/10 5 4 1

請求項の数 6 外国語出願 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2010-228058 (P2010-228058)	(73) 特許権者	391011607
(22) 出願日	平成22年10月8日 (2010. 10. 8)		ヴァレオ ビジョン
(65) 公開番号	特開2011-82169 (P2011-82169A)		VALEO VISION
(43) 公開日	平成23年4月21日 (2011. 4. 21)		フランス国 93012 ボビニー セデ
審査請求日	平成25年9月20日 (2013. 9. 20)		クス リュ サン・タンドレ 34
審査番号	不服2015-18032 (P2015-18032/J1)	(74) 代理人	100060759
審査請求日	平成27年10月2日 (2015. 10. 2)		弁理士 竹沢 莊一
(31) 優先権主張番号	0957072	(74) 代理人	100087893
(32) 優先日	平成21年10月9日 (2009. 10. 9)		弁理士 中馬 典嗣
(33) 優先権主張国	フランス (FR)	(72) 発明者	シリル ウルバン
			フランス国 93012 ボビニー セデ
			クス リュ サン・タンドレ 34 ヴァ
			レオ ビジョン

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 車両照明及び／又はシグナル装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両照明及び／又はシグナル装置（１）であって、ハウジング（２）と、換気孔（１０）とを備え、前記ハウジング（２）は、後部開口（９）と前記後部開口（９）の近傍にある筒状の後部ネック（２０）とを有し、前記後部ネック（２０）において光源（３）が前記ハウジング（２）に取り付け可能であり、前記換気孔（１０）は、前記ハウジングの前記後部ネック（２０）上に形成されており、

換気ダクト（１１）を備え、前記換気ダクト（１１）は、一端に前記換気孔（１０）を形成しており、

前記換気ダクト（１１）は、キャップを受ける端部を備え、前記換気ダクト（１１）を介して空気を通過させるように構成され、

前記ハウジングの内面に被着された反射コーティングで形成されたリフレクタ（２５）を備え、

前記換気孔（１０）は、前記リフレクタから離間し、

フォグランプ又はDRL（日中走行用ライト）を形成していることを特徴とする車両照明及び／又はシグナル装置。

【請求項 2】

前記換気孔（１０）は、前記ハウジングの前記後部ネック（２０）に放射状に開口することを特徴とする請求項 1 に記載の車両照明及び／又はシグナル装置。

【請求項 3】

10

20

前記換気ダクト（１１）は、光軸（X）に対してほぼ直交して形成されていることを特徴とする請求項１に記載の車両照明及び／又はシグナル装置。

【請求項４】

前記換気孔は、前記ハウジングと一体的に形成されていることを特徴とする請求項１～３のいずれか１つに記載の車両照明及び／又はシグナル装置。

【請求項５】

前記ハウジングは、後部ネック（２０）を備え、前記後部ネック（２０）は、ほぼ筒状であり、かつ光源を受ける前記後部開口（９）の近傍にあり、前記換気孔（１０）の少なくとも一部が、前記後部ネック上に形成されていることを特徴とする請求項１～４のいずれか１つに記載の車両照明及び／又はシグナル装置。

10

【請求項６】

前記ハウジング（２）は、実質的に光軸（X）の周りに回転して得られる形状であることを特徴とする請求項１～５のいずれか１つに記載の車両照明及び／又はシグナル装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、車両付属装置に関し、特に車両の前後を照明する照明装置、及び／又は車両の走行車線変更その他の指示、合図又は警告（シグナル）を発生する車両シグナル装置に関する。

【背景技術】

20

【０００２】

特許文献１は、ハウジングを備え、このハウジングの内部と連通する換気孔が設けられている照明装置を開示している。この特許文献１に開示されている例では、換気孔は、リフレクタすなわち反射板を形成するプレートに面している。特許文献１に開示されている他の例では、換気孔は、ハウジング内部のコーティングにより形成されている反射面に開口しており、この換気孔は、照明装置の前から見える。

【０００３】

また、特許文献２及び特許文献３は、換気手段を開示している。

【先行技術文献】

【特許文献】

30

【０００４】

【特許文献１】米国特許第５６０９４０７号公報

【特許文献２】ＥＰ特許第５７９５５５号公報

【特許文献３】米国特許第５４５７６１６号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

しかし、上述の如き従来技術は、美感において改善すべき点を有し、かつ構成が比較的複雑であるという課題を有する。

【０００６】

40

本発明は、従来技術の上述した課題に鑑みてなされたものであり、かかる課題を解決又は軽減すること、即ち美感又はデザイン性に優れ、かつ構成が比較的簡単である車両照明、及び／又はシグナル装置を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

上述した課題を解決するとともに、上述した目的を達成するために、本発明の車両照明及び／又はシグナル装置は、次の如き特徴的な構成を採用している。

【０００８】

すなわち、本発明の車両照明及び／又はシグナル装置は、光源が取り付けられる後部開口を有するハウジングと、このハウジングの後部開口内に開口する換気孔とを備えている

50

ことを特徴としている。

【0009】

上述の換気孔は、ハウジングの後部開口の周りに放射状に形成されているのが好ましい。

【0010】

また、本発明の車両照明及び／又はシグナル装置は、換気孔の一端に形成された排気ダクトを有しているのが好ましい。

【0011】

本発明の一例では、車両照明及び／又はシグナル装置は、光軸を有し、排気ダクトは、この光軸に対して傾斜、即ち光軸と非平行状態に形成されている。

10

【0012】

上述排気ダクトは、光軸と実質的に直交方向へ延びているのが好ましく、これにより、装置の小型化が図られる。

【0013】

本発明の一例では、上述した排気ダクトは、光軸から放射方向へ離れるほど、その内径が大となるように形成されている。

【0014】

必要に応じて、上述した排気ダクトは、例えばプラスチック製のキャップを受ける端部を備え、排気ダクトを介して空気を通過させるように構成される。

20

【0015】

上述したキャップは、外部と排気ダクト間の空気循環チャンネルを定めているのが好ましい。

【0016】

上述した換気孔は、本発明の車両照明及び／又はシグナル装置のハウジングと一体に形成するのが好ましい。

【0017】

本発明の一例によると、ハウジングは、実質的に筒状であり、かつ光源を受ける後部開口の近くに後部ネックを備え、換気孔の少なくとも一部は、後部ネック上に形成されている。

30

【0018】

一例として、本発明の車両照明及び／又はシグナル装置に使用される光源は、上述したハウジングの後部開口に取り付けられた電球ホルダに取り付けられた電球である。

【0019】

上述した本発明の車両照明及び／又はシグナル装置の換気孔は、上述した電球ホルダの直ぐ反対側に形成されるのが好ましい。電球ホルダとハウジングの間には、必要に応じてガスケットが配置される。

【0020】

また、本発明の一例による車両照明及び／又はシグナル装置は、ハウジングの内面に被着された反射コーティングからなるリフレクタを備えている。換気孔は、この反射器から離間しているのが好ましい。

40

【0021】

本発明の一例では、上述したハウジングは、実質的に光軸の周りに回転して得られる形状を有する。

【0022】

本発明の車両照明及び／又はシグナル装置は、例えばフォグランプ又はDRL（日中走行用ライト）であってもよい。

【発明の効果】

【0023】

上述の如き特徴的な構成の採用により、本発明の車両照明及び／又はシグナル装置は、その前面、特に光軸方向からは、後部開口は見えても、換気孔は見えず、かつ換気孔を見

50

えなくするための、例えば目隠しカバー等の付属部品を使用する必要がない。そのため、美感が優れ、構成が簡単かつ安価な装置が得られる。

【0024】

更に、光源の近傍の空気を循環させるので、換気効果が優れ、電球等の光源からの発熱による装置内部の温度上昇を抑えることができる。換気孔を、後部開口の周囲に設けたことにより、換気効率を改善することもできる。

【図面の簡単な説明】

【0025】

【図1】本発明による車両照明及び／又はシグナル装置の好適な実施例の断面図である。

【発明を実施するための形態】

10

【0026】

以下、本発明による車両照明及び／又はシグナル装置を、添付図面を参照して詳細に説明する。

【0027】

図1は、本発明による車両照明及び／又はシグナル装置の好適な実施例の断面図である。

【0028】

この車両照明及び／又はシグナル装置（以下、単に装置と省略する場合もある）1は、光軸Xを有する。

【0029】

20

本発明の装置1は、次の要素を備えている。

－例えばプラスチック製であり、例えばフィラメントランプである光源3を受容するハウジング2。

－このハウジングの近くに配置され、例えばハウジング2のフランジ5と協働するようになっている係合縁4を有するレンズ8。

－光源3をハウジング2に取り付けるハウジングの後部開口9。

－ハウジング2の後部開口9内に開口する換気孔10。

【0030】

換気孔10は、ハウジング2の上述した後部開口9から放射状に設けられている。

【0031】

30

本発明の装置1は、更に内端12に換気孔10が設けられている排気ダクト11を備えている。この排気ダクト11は、光軸Xに対して角度を持って、即ち光軸Xに対して非平行状態に設けられている。

【0032】

本発明の好適実施例によると、排気ダクト11は、光軸Xに対しておおむね直交している。

【0033】

排気ダクト11の内径Dは、光軸Xから放射状に遠去かるにつれて増大している。排気ダクト11の外端部13には、空気が排気ダクト11を通過させようになっているキャップ14が設けられている。

40

【0034】

上述したキャップ14は、外部と排気ダクト11との間で、空気循環チャンネル15を形成している。換気孔10は、ハウジング2と一体に形成されている。

【0035】

排気ダクト11は、ハウジング2と一体に形成されている。ハウジング2の後部には、ネック部20が形成されている。このネック部20は、ほぼ筒状であり、後部開口9に隣接して光源3を支持している。上述した換気孔10は、ネック部20に設けられている。

【0036】

光源3は、電球ホルダ22に取り付けられる電球21からなっている。この電球ホルダ

50

２２は、ハウジング２の後部開口９内に取り付けられている。

【００３７】

換気孔１０は、電球ホルダ２２に直接対面している。ガasket ２３が、電球ホルダ２２とハウジング２との間に設けられている。

【００３８】

更に、ハウジング２は、ハウジング２の内面２６に被着された反射コーティングにより形成された反射板２５を備えている。上述した換気孔１０は、反射板２５から離間している。

【００３９】

ハウジング２は、実質的に光軸Ｘの周りに回転して得られる形状を有する。一例として、本発明の装置は、 Fog ランプ又は DRL（日中走行用ライト）を形成している。 10

【００４０】

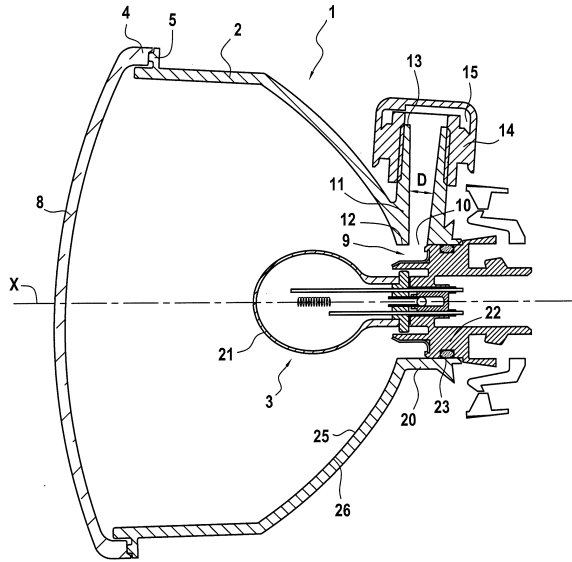
以上、本発明による車両照明及び／又はシグナル装置の好適な実施例について説明した。しかし、本発明は、この実施例のみに限定されるべきではないことに留意されたい。すなわち、本発明の精神や要旨を逸脱することなく、特定の用途に応じて、種々の変形や変更が可能であることは、当業者には容易に理解できると思う。

【符号の説明】

【００４１】

1	車両照明及び／又はシグナル装置	
2	ハウジング	20
3	光源（電球）	
4	係合縁	
5	フランジ	
8	レンズ	
9	後部開口	
10	換気孔	
11	排気ダクト	
12	内端	
13	外端部	
15	キャップ	30
20	ネック部	
22	電球ホルダ	
23	ガasket	
25	反射板	
D	排気ダクトの内径	
X	光軸	

【図 1】



フロントページの続き

(72)発明者 オリヴィエ グルブール
フランス国 93012 ボビニー セデクス リュ サン・タンドレ 34 ヴアレオ ビジ
ン

合議体

審判長 島田 信一

審判官 森林 宏和

審判官 氏原 康宏

(56)参考文献 実開平4-136807 (JP, U)
特表2000-517100 (JP, A)
特開2001-143524 (JP, A)
特開平10-326520 (JP, A)
特開2003-151342 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
F21S8/10-8/12, F21V31/03